

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4592000014		
法人名	特定非営利活動法人こすもすの里		
事業所名	グループホームこすもす2号館		
所在地	宮崎県児湯郡新富町大字上富田5332 (電話) 0983-21-5033		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年4月15日	評価確定日	平成21年5月29日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、幹線道路から程近い場所に位置し、閑静な住宅と農地が混在した地域に溶け込んでいる。利用者は満足した穏やかな表情で、安心した生活を送っていることが伺える。一方で、職員が目指すグループホームの目標は、開設当時から3年を経過するに従って高く設定され、サービスに対する職員自身の評価は非常に厳しいものがある。運営者と職員の、共に目指す方向は同じでも、立場による隔たりを感じる場面があった。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の改善課題の中で、地域との関係、災害対策については、運営者の役割が大であり、今回も同様に継続されることとなった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
重点項目②	職員がそれぞれ自己評価を記入し、全員でミーティングをして作成された。改めて、課題や問題点、目指す方向性を意識する機会となっている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
重点項目③	運営推進会議は定期的開催され、出席者からの意見も出されるが、開設から3年経過しても、それによる具体的な地域住民とのつながりや深まりが得られていないため、職員の評価は厳しいものがある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
重点項目④	家族の意見やニーズを取り込むための、家族への動機付けとなるホームからの発信が少ない。ホーム便りなどの情報提供が少ないことと、意見を取り上げる仕組みができていない。
	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	自治会の会合や、公民館行事への参加を検討し、地域との交流を目指しているが実現困難な状況である。

【情報提供票より】（平成21年3月30日事業所記入）

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年4月18日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤8人, 非常勤0人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成21年3月30日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1	6	要介護2	2			
要介護3	0	要介護4	0			
要介護5	0	要支援2	1			
年齢	平均	84歳	最低	73歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	児玉医院、いちき歯科
---------	------------

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の人格を尊重し、地域の中で安心して暮らし続けられるホームづくりを目標としている。理念の掲示が、玄関の高い位置のため見づらい感は否めない。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員が理念を理解・共有でき、日々の具体的なケアの中で実践されるよう指導している。職員間の意識も高く、利用者主体のケアが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区自治会に加入（準会員）し、運営者が公民館の会議等に出席している。ミニバレー大会に利用者と職員が参加したこともあるが、現在は日常的な行事の参加や、交流までには至っていない。参加可能な行事の把握などのために、2か月前に町の防災無線を取付けた。	○	地区の行事への参加、ホームへの受け入れなど、双方のニーズが満たされる交流を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解している。一人ひとりが自己評価表に記入したものを持ち寄り、共有化されたものが作成され、課題や改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催され、ホームの計画や状況、外部評価の結果が報告され、出された意見をサービス向上のために活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの運営に関する行政との対応は運営者が、サービスやケアの相談等は管理者でと役割分担されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時や、電話で利用者の健康や暮らしぶり、介護計画、金銭管理が報告されている。家族への報告の頻度や報告内容は口頭が多く、記録として残されていないことがある。	○	「ホーム便り」を発信することで、利用者、家族、ホームの連携となり、家族の意見が運営に反映される礎が期待できるので、運営者は職員が過負担にならないよう分担、協力し発行されることを望みたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情については、玄関に苦情・相談箱が利用できるようになっているが、投函されたことはなく、家族の意見を引き出すには至っていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	種々の理由で、年間2～3名の職員が利用者へのダメージを気遣いながら退職している。残る職員もダメージが抑えられるよう努力している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	知識や技術の習得のための研修が受けられる仕組みがあるが、さらに職員は働く意欲を失わず、生き生きと働きたいという思いがある。運営者と職員の臨時的なミーティングだけでなく、日常的、定例的な開催により、相互理解やタイムリーな改善事項の実現を希望している。	○	基準の人員だけでなく、利用者やホームの運営にとって、運営者や職員が共働することが基本となる。相互に立場や役割を理解し、人材育成に積極的に取り組んでいただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会には、運営者と管理者が出席して意見交換がされている。現在、職員が他のホームの見学や実習などの交流・研修に取り組むまでには至っていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からのアセスメントにより、利用者が得意なことや関心ある話題を用いて、利用者が安心して過ごせるよう職員全員で取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から「ここが一番いい。ここにいて幸せ。」との言葉が聞かれる。利用者同士や職員との会話を傾聴し、ゆったりと穏やかな関係が築かれていることが感じられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりの話や動作から、思いや希望を把握する寄り合い方が見られる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を把握し、ミーティングにおいて職員と検討を重ね介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護度の低い利用者が多いこともあり、変化がなく介護計画の変更の必要性がない場合は、定期的な見直しを行わないことがある。	○	見直しには、当初計画の削除や、更に高い目標設定の機会もあるので、定期的な介護計画を見直す取り組みを望みたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームの主催で、認知症やグループホームについて専門医を招き、町民や関係職員を対象に講演会を開催した。今後も、町の担当課やグループホーム連絡協議会などの関係機関と連携した取り組みを検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望でかかりつけ医の治療を受けている。夜間や救急時の協力医との調整や、往診可能な医療機関との協議など、課題を抱えている状況である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の方針の必要性は認識しているが、本人や家族、かかりつけ医を含めた全員で方針を共有するまでには至っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーへの配慮は、職員同士が言葉かけや対応に気をつけている。俳句や写真にもフルネームを載せないなど、十分留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中の室内レクリエーションには喜んで参加する利用者が多いが、個々のペースに合わせて無理強いをせず、希望に沿った支援がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望する献立を町の栄養士に依頼して、栄養バランスや摂取カロリー、糖尿病治療者への注意点などの指導を受けている。利用者も当番制で、食事の役割に参加している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日の午後に、入浴時間帯が設定されているが、希望すれば毎日の入浴もできる。一人ひとりがゆっくり入浴できる支援がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や特技を活かした修繕や塗装、生け花、食事時の役割分担を通して、利用者の生きがいや充実感が得られるよう、また、利用者間の人間関係に配慮しながら、それぞれが支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内の庭やテラスのデッキで過ごすこともできる。行事で全員で外出する機会はあるが、職員による一人ひとりへの日常的な外出支援は難しく、家族の協力を得ている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアに取り組み、日中は玄関などの鍵はかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導による火災訓練を年1回実施している。職員はIH調理器の使用と喫煙者がいないので、火災以外の訓練の必要性は認識しているが、実施しておらず、地域の協力体制もできていない。	○	地震や集中豪雨（ホームが低地にある）、夜間を想定して、避難訓練を定着化することが必要である。地域住民だけでなく、近くの企業への協力依頼体制に取り組んでいただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立や食事制限については、町の栄養士の指導を受け、個々の摂取量や水分チェックが行われている。牛乳やヨーグルトなどの乳製品が不足しない配慮がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の食堂兼居間は、ソファや畳間があり、好みの過ごし方でくつろぐことができる。浴室は、現在の利用者には支障は少ないが、出入り口が狭く浴槽が深いので、車いす使用や入浴介助には、改造が必要となる状況である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は個人で準備した持ち物が使われ、壁には家族からのメッセージや写真が飾られ、過ごしやすく工夫されている。		

※  は、重点項目。